一般財団法人武田計測先端知財団
2018 年度事業報告
（2018 年 4 月 1 日から 2019 年 3 月 31 日まで）

1. 顕彰事業

1.1 ヤング武田賞

1.1.1.募集経緯

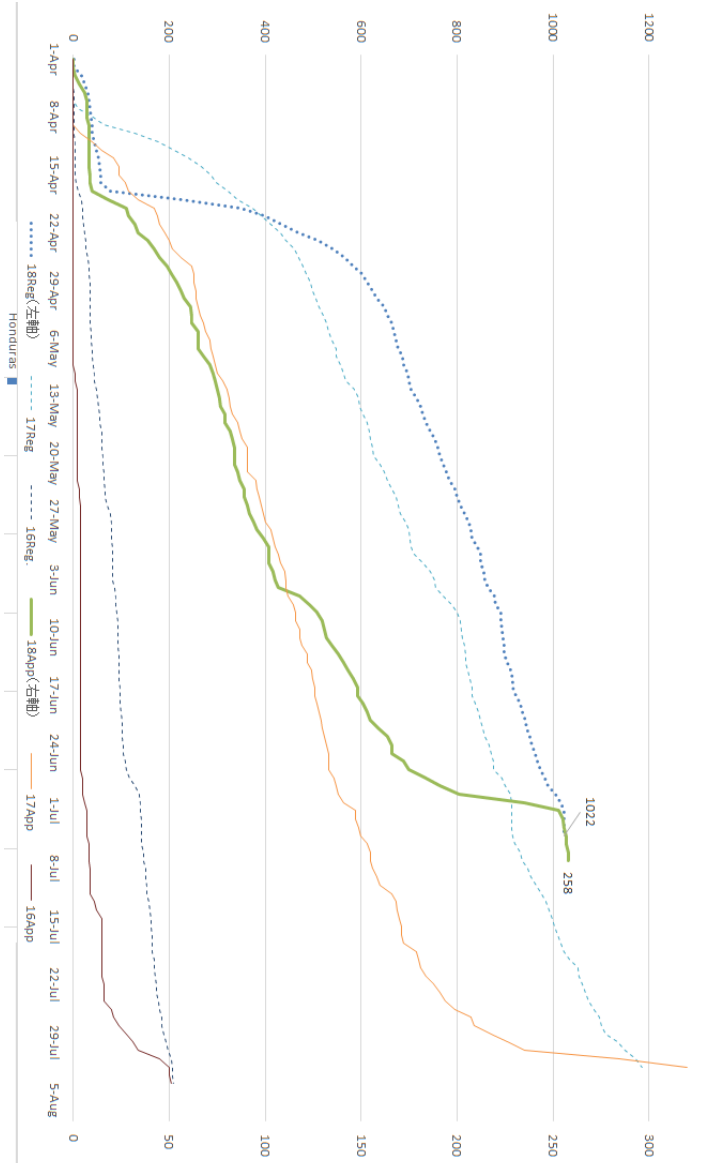
4 月 1 日に財団ホームページにヤング武田賞2018をアップし、3 日から募集を開始した。同時にヤング武田賞受賞者、登録者、政策対話参加者などに案内メールを送信した。また、JICA 本部より各国駐在事務所に案内を送付して頂いた。

国際開発ジャーナル、日本半導体製造装置協会、セミコンダクターポータル、半導体産業人協会、現代化学で紹介頂いた。

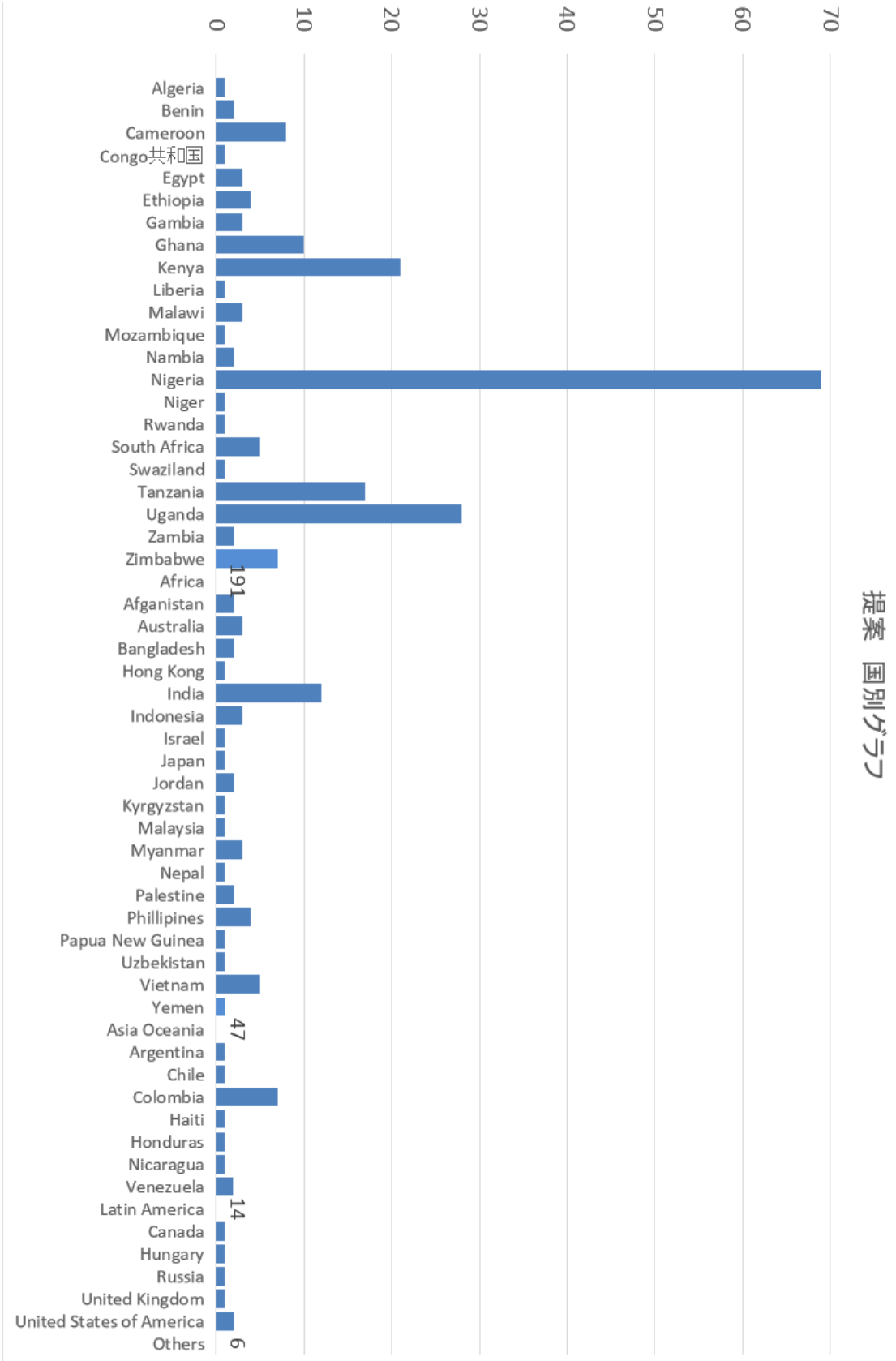
4 月第 2 週より登録者が急増した。6 月末で締め切り、登録 1022 件、提案 258 件となった。

1.1.2. 募集結果

1.1.2.1 登録・提案数推移



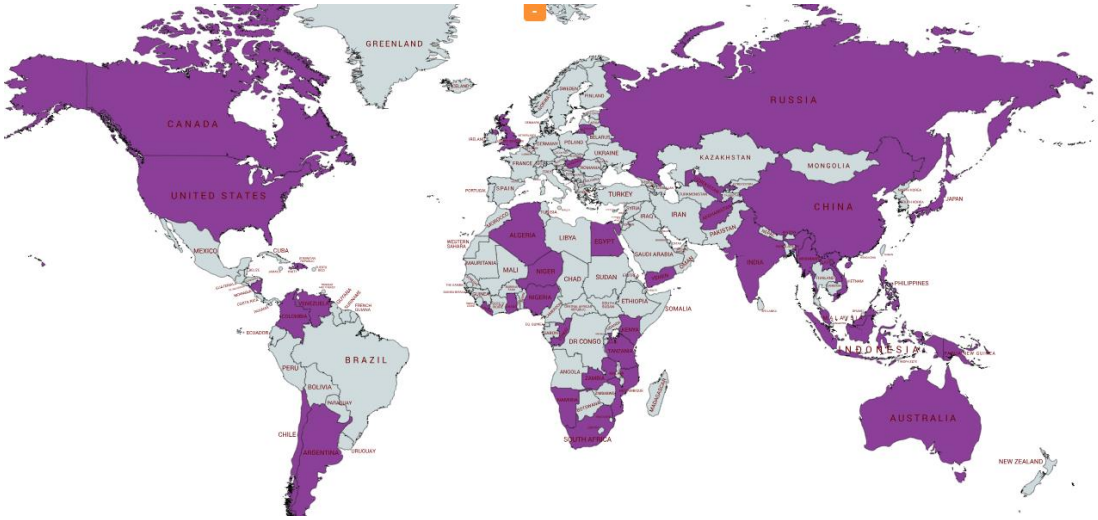
1.1.2.2. 国別提案数


提案 国別グラフ
0
10
20
30
40
50
60
70
Algeria
Benin
Cameroon
Congo共和国
Egypt
Ethiopia
Gambia
Ghana
Kenya
Liberia
Malawi
Mozambique
Nambia
Nigeria
Niger
Rwanda
South Africa
Swaziland
Tanzania
Uganda
Zambia
Zimbabwe
Africa
191
Afganistan
Australia
Bangladesh
Hong Kong
India
Indonesia
Israel
Japan
Jordan
Kyrgyzstan
Malaysia
Myanmar
Nepal
Palestine
Phillipines
Papua New Guinea
Uzbekistan
Vietnam
Yemen
Asia Oceania
47
Argentina
Chile
Colombia
Haiti
Honduras
Nicaragua
Venezuela
Latin America
14
Canada
Hungary
Russia
United Kingdom
United States of America
Others
6

1.1.2.3 男女別提案者数と提案者の地域分布

2018 年度は世界 53 か国から 258 件の提案があった。2018 年度は公募期間を従来の 4 か月から 3 か月に短縮したため、昨年より少ない数になっているが、4 か月にしていれば昨年と同数以上の提案があったと思われる。地域別ではアフリカ 191 件、アジア 47 件、中南米 14 件、北米と欧州 6 件であった。

年	総数(募集期間)	男性/女性	女性割合(%)	応募者出身国
2013	**30**(5 か月)	**25/5**	**16.7**	**12**
2014	**44**(4 か月)	**34/10**	**22.8**	**16**
2015	**41**(4 か月)	**34/7**	**17.1**	**18**
2016	**50**(4 か月)	**30/20**	**40.0**	**24**
2017	**320**(4 か月)	**233/87**	**27.2**	**74**
2018	**258**(3 か月)	**202/56**	**27.7**	**53**



提案国

1.1.3. 選考経緯

浅田邦博東京大学名誉教授、金田哲也(株)toor Co-Founder, COO、工藤一郎エコアンドアートテクニカ代表、末森満(株)国際開発ジャーナル社長、養王田正文東京農工大学工学部生命工学科教授、村井勝 TX アントレプレナーパートナーズ最高顧問の 6 名の方に選考委員を委嘱し、浅田先生に選考委員長をお願いした。

258 件の提案を PO が分担してヤング武田賞選考要綱に従って予備調査を行い、PO としての点数をつけた。応募者数が多くなることが予測されたので 5 月から予備調査を開始し、8 月末で終了した

9 月 12 日に第一回選考委員会を開催し、第二回選考委員会で議論すべき案件について検討した。予備調査の結果、アイディアのみで実施していない、受益者の証言がない、組織の業務の一環として行っているなど募集要件を満たしていないと思われるものを選考から外す提案を行い、了承された。残る 21 件について第二回選考委員会で議論することになった。21 件のうち追加調査が必要な案件については担当 PO が調査し、選考委員に報告した。

第二回選考委員会は、9 月 28 日に開催した。事前に各選考委員に 6 件の推薦をして頂き、それを基にテレビ会議で発表してもらう 6 件の提案と、次席を決定した。

テレビ会議(第三回選考委員会)を 10 月 12 日に開催した。事務局より事前に発表候補者 6 人にテレビ会議参加が可能であるか否か打診したところ、全員が参加可能であるとのことであったので、選考した 6 件についてインターネットを使ったプレゼンテーションと質疑応答の後、最終選考を行った。審議の結果、最優秀賞1件(賞金 100 万円)、選考委員会特別賞 2 件(賞金各 30 万円)、優秀賞 3 件(賞金各 20 万円)を選考した。受賞者の性別は男性 3 人、女性 3 人となった。

選考結果は添付1参照。

1.1.4. ヤング武田賞受賞者招待

ワークショップと表彰式のためヤング武田賞の受賞者を日本に招待した。受賞者の一人、ウガンダの Nabuuma Shamim Kaliisa さんは昨年 11 月に男の子を出産したばかりだったので, 代理として Program Director の Peter Agaba 氏を招待した。2 月 1 日に賞金を授与し、受賞者の歓迎会を開催した。受賞者は添付1参照。

1.1.4.1 ヤング武田賞ワークショップ

出来るだけ多くの人に参加してもらえるように、武田シンポジウム開催当日(2 月 2 日)の午前(10 時から 12 時)を使ってヤング武田賞ワークショップを開催した。一般参加申

込者数は 84 名、出席者数は 49 名であった。一般参加者の他に、選考委員の浅田邦博先生、大島泰郎先生、養王田正文先生が出席した。受賞者及びプロジェクトの代表者の発表はゆっくりした口調で聞き取りやすく、会場からの質問も 2,3 あった。

1.1.4.2. ヤング武田賞表彰式

武田シンポジウムの冒頭30分で表彰式を行った。2018年度の最優秀賞の受賞者、Ankit Agarwal さんがインド国籍であったことから、授賞式にはインド大使館より、新任したばかりの Verma 大使と、主席公使の Srivastava 氏にご出席頂いた。浅田選考委員長の選考結果報告の後、唐津理事長から各受賞者に盾と賞状を渡した。最優秀賞はヒンズー教寺院に捧げられた膨大な生花を利用して線香や有用な日用品を製造することで低所得者層の雇用を実現するとともに生花がガンジス河に捨てられることから生じる環境汚染を解決しようとしているインドの Ankit Agarwal さんが受賞した。受賞者を代表して Ankit Agarwal さんがスピーチを行い、Verma 大使が来賓としてお祝いの言葉を述べた。

1.1.5 フランス語圏アフリカについての勉強会

ヤング武田賞の2018年度の受賞者6名のうち、4名がアフリカ出身であつた。また、アフリカからの応募者の多くが旧英国植民地の人たちであった。そこで、1 月 17 日に、加藤隆一 JICA アフリカ部長を講師に迎え、英語を話す国からだけではなくフランス語を話す国からも応募者を増やすにはどうすればいいかという問題意識で、日本人には比較的なじみの薄いフランス語圏アフリカの現状と課題についてお話をうかがった。フランスの植民地統治が英国と異なる直接統治であり、フランスへの同化を強力に推し進めたことが、アフリカ植民地独立後のフランスの移民問題につながったという視点が

大変興味深かった。加藤部長からは、応募者を増やすには、フランス語圏アフリカの民衆のウエブネットワークにつながることが大事であるという示唆を頂いた。

1.2. さくらサイエンスプラン

2018 年 7 月 23 日より 8 月 1 日の日程でキルギスの大学生、研究者 11 名を招へいし、日本の IoT 技術について体験学習を行った。まず、IoT の具体的な応用について見学し、その後、IoT を支える基礎技術の研究について研修した。具体的な応用として、柏の葉スマートシティのスマートグリッド(エネルギー)、東京農工大と Farmnote 社が開発した乳牛の個体管理(酪農)、渋谷区観光協会が実証実験を行ったおもてなしプラットフォーム(観光)について研修した。IoT を支える基礎技術については、東大生産技術研究所(生研)平本研究室で超低消費電力デバイスの開発と半導体製造に用いるクリーンルームを見学し、同じく生研の高宮研究室では、IoT のセンサー等に必要なエネルギーハーベスティング技術について体験学習を行った。また、東大大規模集積回路設計研究センターでは池田誠教授に、IoT を実際に使用する際に必須のセキュリティ(暗号)技術について説明を受けた。

2. 調査事業

2.1 TTM(Takeda Tea Meeting)

毎週財団スタッフによるミーティングを開催した。財団スタッフが関心を持ったテーマについて説明し、討論を行った。また、ヤング武田賞や、武田シンポジウムの実施計画立案の議論もこのミーティングで行った。

2018 年度のテーマは添付資料 2 参照。

2.2 未病社会の診断技術研究会

外部の有識者による上記研究会の活動を支援した。

3. 普及事業 I

3.1 武田シンポジウム2019

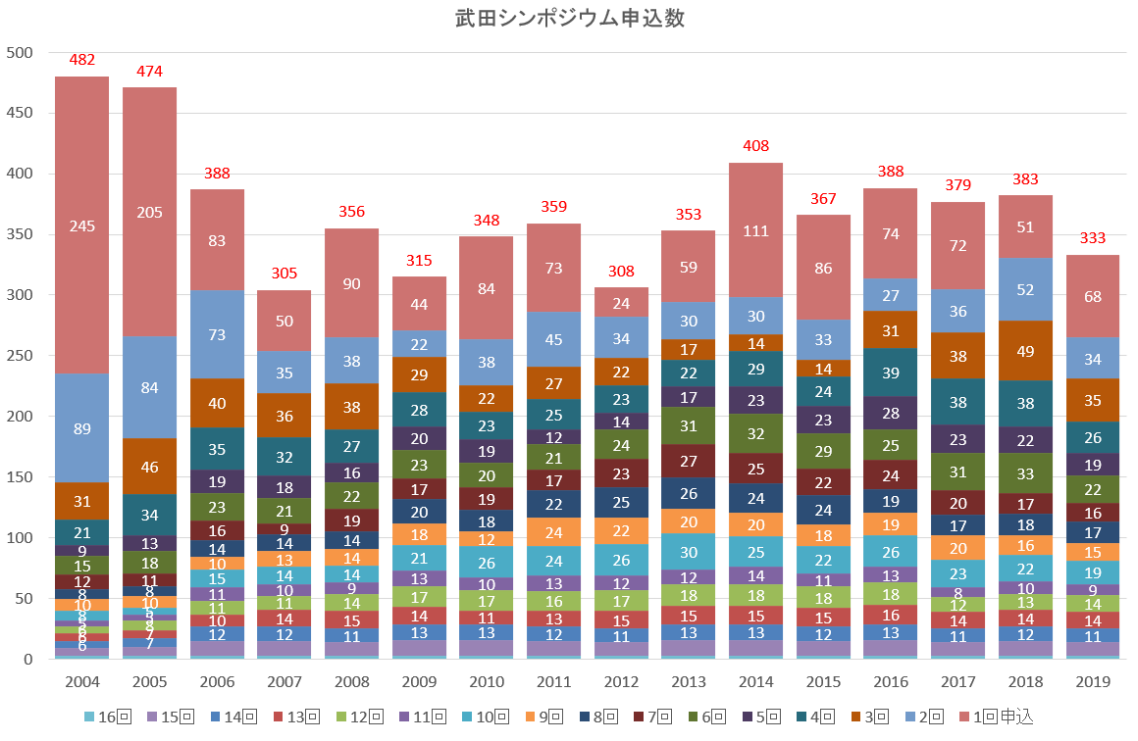
2 月 2 日に「次の 20 年をどう考えるか」をテーマとして開催した。山本雅之東北メディカル・メガバンク機構機構長、宮崎聡国立天文台先端技術センター准教授、井上智洋駒沢大学経済学部准教授の 3 人に講師をお願いした。山本雅之機構長には「東北メディカル・メガバンク計画と未来の医療」、宮崎聡准教授には「すばる望遠鏡広視野カメラで挑む宇宙の謎」、井上智洋准教授には「AI 時代になぜベーシックインカムが必要か」をテーマに講演した頂き、最後に財団理事長の唐津治夢が司会して総合討論を行った。

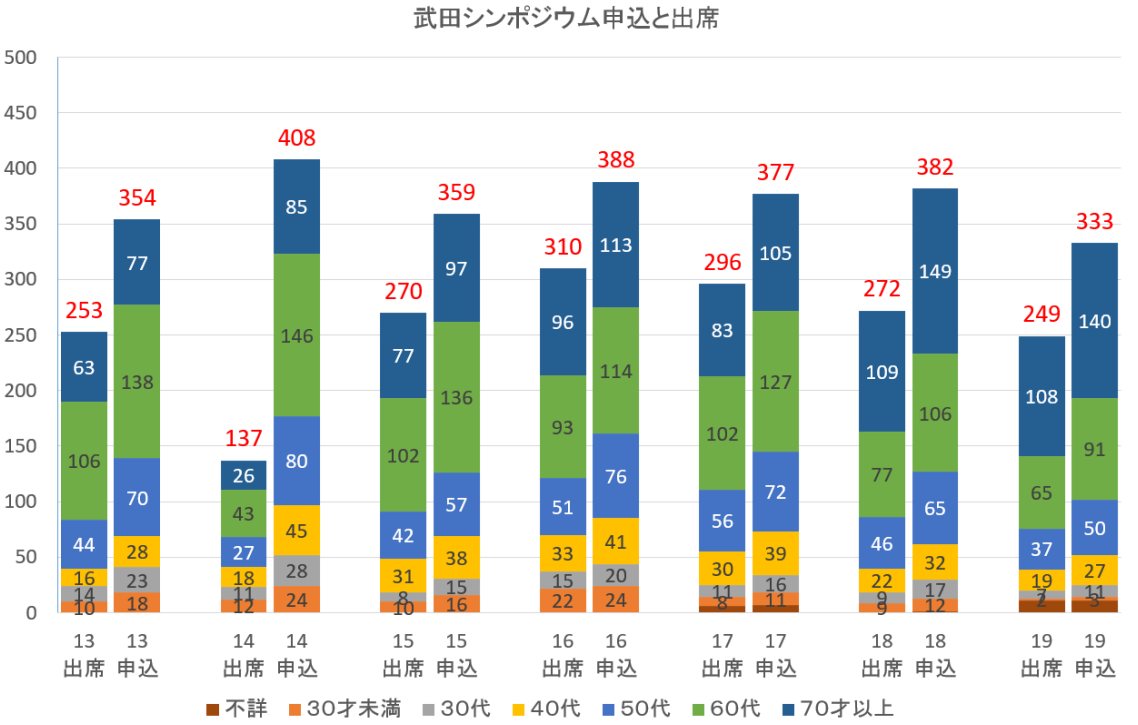
企画時から予想した通りベーシックインカムについては賛否両論であったが、どの講演も分かりやすかったという参加者の感想が多かった。

参加申込は 333 名、出席者は 249 名であった。今年は参加者と講師の懇親会は行わず、講師と財団関係者の懇親会を行った。

会場写真、参加申込数のグラフ、年齢別申込者と参加者のグラフを下に示した。

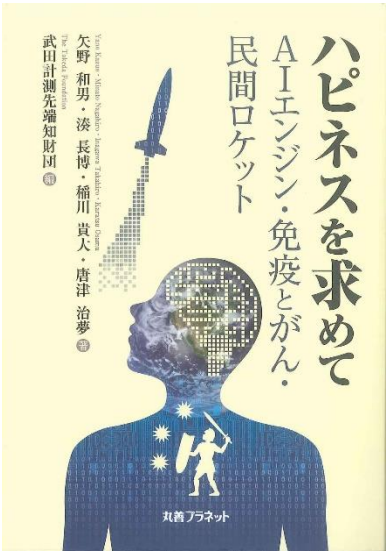
会場風景


武田シンポジウム申込数
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018
2019
16回
15回
14回
13回
12回
11回
10回
9回
8回
7回
6回
5回
4回
3回
2回
1回申込


武田シンポジウム申込と出席
13 出席
13 申込
14 出席
14 申込
15 出席
15 申込
16 出席
16 申込
17 出席
17 申込
18 出席
18 申込
19 出席
19 申込
不詳
30才未満
30代
40代
50代
60代
70才以上

3.2 出版

武田シンポジウム2018の内容をもとにした『ハピネスを求めて AI エンジン・免疫とがん・民間ロケット』を、財団編 矢野和男、湊長博、稲川貴大、唐津治夢 著の本として丸善プラネット株式会社から出版した。丸善出版株式会社から書店ルートで販売している。同時に Kindle 版も制作し Kindle ストアからオンライン販売も行っている。



財団スタッフが原稿ドラフトを作成し、著者に加筆訂正をお願いして原稿を作成した。これまでの評議員、理事、武田シンポジウムの講演者、アントレプレナー調査の対象者、カフェ・デ・サイエンスのゲストなどの財団関係者約 250 名に送付した。

4. 普及事業Ⅱ

4.1 武田セミナー

武田シンポジウムとカフェ・デ・サイエンスの中間に位置付けるものとして、開催している。

2018 年 6 月からは「ゲノム編集」をテーマに開催した。講師は大島泰郎常任理事にご紹介を頂き、濡木理東京大学大学院教授にお願いした。2018 年 6 月に第 1 回、8 月に第 2 回、10 月に第 3 回、12 月に第 4 回を開催した。ゲノム編集の基礎から最先端の編集技術や応用までをお話し頂いた。2019 年 3 月からは、三宅英彦お茶の水女子大学教授、佐々木元子お茶の水女子大学認定遺伝カウンセラー、鈴木美慧聖路加病院認定遺伝カウンセラーに講師をお願いして「遺伝カウンセリング」をテーマに開催する。第 1 回は 3 月 16 日に開催した。

4.2 ウィークエンド・カフェ・デ・サイエンス

科学博物館のサイエンスコミュニケータ養成講座修了生の有志を中心として財団と共催で開催している。財団は、運営資金の補助と毎月の定例会での議論への参加を主な支援として行なっている。

4.3 カフェ・デ・サイエンス

モデレーターの都合もあり、2018 年度は休止とした。

5. 広報関係

ヤング武田賞の募集、武田セミナーの参加者募集、討論内容、などを財団ホームページに随時掲載した。

6. 助成金

一般社団法人育珠の会様に、育珠の会様の年度(10 月 1 日から 9 月 30 日まで)に合わせて 2018 年 10 月 1 日から 2019 年 9 月 30 日までの助成申請書(助成金額 1,000 万円)を提出し、2018 年 8 月に総額 830 万円の助成決定通知書を頂いた。その決定に基づいてヤング武田賞 2018 事業の助成金として 2018 年 10 月 20 日に 475 万円、武田シンポジウム 2019 事業の助成金として 2019 年 1 月 9 日に 355 万円を頂いた。

7. 総合研究奨励会との打合せ

いずれ財団活動を終了した後の財団記録アーカイバルなどのアクセスを可能にしておくことが望ましいと考えられるので、東京大学工学部の活動を主に支援している一般財団法人総合研究奨励会(浅野キャンパス工学部 9 号館)との打合せを開始した。今後の財団活動と財政状態を確認しながら具体化していきたい。

添付資料1　ヤング武田賞 2018 選考結果

最優秀賞

Mr. Ankit Agarwal（Founder and CEO of HelpUsGreen, India）
Helpusgreen

選考委員会特別賞

Ms. Dalareich Polot (CEO of Ginto Fine Chocolates Corporation, Philippines
Ginto Chocolates in the Island of the Chocolate Hills

Dr. Nabuuma Shamim Kaliisa (Founder and Executive Director of Community Dental and Reproductive Health, Uganda）
Cervical cancer screening for all

優秀賞

Mr. Elijah Amoo Addo（Founder and CEO of Food for All Mobile Technologies Ltd, Ghana）
Okumkom Mobile App and Community Discount Store

Ms. Naadiya Moosajee (Co-founder of WomEng, South Africa)
WomEng

Mr. Venuste Kubwimana (Secretary General of International Transformation Foundation, Kenya）
Join the Pipe Water Kiosk at school

添付資料 2　TTM テーマ一覧

月日	講師	テーマ	
2018 /4/3	全員	来年のシンポ（1）	8
4/10	溝渕	ゲノム編集って(その 2)	8
4/17	赤城	太陽電池 12 年+北朝鮮制裁の現実	8
4/24	大戸	キルギスについて	9
5/8	濡木理先生 （東大）	ゲノム編集	11
5/15	宮島	聴覚障碍者の現状とｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	8
5/22	相崎	自動運転用センサーの動向	7
5/29	全員	来年のシンポ（2）	8
6/5	鴨志田	IoT日本の現状/将来のIoT	8
6/12	禿	出雲を拠点とした素戔嗚の活躍	8
6/19	溝渕	メタマテリアル入門	8
6/26	赤城	未解のアフリカ	8
7/3	全員	来年のシンポ（3）	8
7/10	大戸	キルギス紀行	9
7/17	全員	ヤング武田賞検討会 1(13-16.30)	8
7/24	全員	さくらサイエンスオリエンテーション・歓迎会	19
7/31	全員	さくらサイエンスまとめ・送別会	20
8/7	全員	ヤング武田賞検討会 2(13-16.30)	7
8/21	全員	ヤング武田賞検討会 3(13-14.30)	8
8/21	黒田昌裕先生（慶応大学名誉教授）	経済成長とイノベーションの役割(15.00-17.00)	11
8/28	全員	ヤング武田賞検討会 4(13-16.30)	8
9/4	全員	ヤング武田賞検討会まとめ(13-16.30)	9
9/11	全員	来年のシンポ（4）	8
9/18	相崎	熱中症の動向と要因分析	8
9/25	鴨志田	三次元デバイス	7
10/2	禿	縄文文化（その1）	8
10/16	全員	来年のシンポ（5）	8
10/23	溝渕	エクソソーム	7

10/30	赤城	小売業とアマゾン	8
11/6	大戸	二重らせんから逆システム学まで	7
11/13	西村吉雄先生	イノベーションは本当に機能しているのか？	7
11/20	相崎	説明できるAIとAI用半導体の動向	8
11/27	全員	来年のシンポ（6）	8
12/4	鴨志田	気’考’（その1）	8
12/11	禿	縄文の数字文化	7
12/18	嶋田一義さん（JST）	課題解決に向けた「共創」の推進～JST の取り組み～	11
2019/1/8	溝渕	「見田宗介」現代社会はどこに向かうか	9
1 月 17 日（木）13-15 時	加藤隆一氏（JICA アフリカ部長）	フランス語圏アフリカの現状と課題（402 会議室）	12
1/22	赤城	ヒトの言語	7
2/5	全員	ワークショップ・シンポ反省会	8
2/12	大戸	騎馬民族征服説	8
2/19	三井	「ゲノム編集」を考える	10
2/26	全員	シンポアンケート整理・反省会	8
3 月 7 日（木）	松波宏明先生(ﾃﾞｭｰｸ大学教授)	匂いの科学	12
3/12	全員	来年のシンポ（0）	7
3/19	相崎	気‘考’（その2）	6
3/26	鴨志田	マテリアルズインフォマティクスの現状と課題	9